

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



July						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

July 2025 vol.135

◆ 防災メモリアル地附山公園

所在地：長野県長野市大字上松

交通：長野電鉄長野線「善光寺下」駅 北約4km

昭和60(1985)年7月26日午後5時過ぎ、長野県長野市の中心部から北西に位置する、標高733mの地附山の南東斜面がゆっくりと動き始め、やがて巨大な土のかたまりとなって、ふもとの住宅地を襲いました。地附山地すべりと呼ばれるこの災害では、約25ha、360万 m^3 （バンテリンドームナゴヤ約2個分）の土砂が滑り落ち、山麓にあった特別養護老人ホーム「松寿荘」で大きな被害が発生しました。松寿荘には、発生当時198名のお年寄りがいましたが、逃げ遅れる人が多く、40名が土のかたまりに押しつぶされた建物の下に取り残されました。その後、必死の救助活動が行われましたが、26名の尊い命が失われました。

以下は松寿荘で寮母をされていた方のコメントです。「あの日、午後5時半ちょっと過ぎだったでしょうか、ザーザーというタ立のような音が聞こえた。廊下に出てみたら、山の上部がくずれ出しているのが見えた。」「外の遊歩道に二人お年寄りがいたのでまず避難させ、山ぎわの第五棟の人を一番南の棟の2階の集会室に集めました。その間もどんどん土砂が押し寄せ、最も山側の第五棟が崩れ始めるまで10分もなかったように思います。」「第五棟には寝たきりの人が24人いて、20人までは出すことができた。ベッドに2、3人ずつ乗せ必死で運んだ。毛布でくるんで、引きずって出したお年寄りもいます。みるみるうちに床に割れ目ができ、ドアがゆがんで開けられできない。ちょうど運ぶベッドがドアにはさまってすき間ができ、やっと一人を引き出すこ

とができました。ふり向くと、後ろは押し寄せた土砂で真っ暗。表現のしようのない勢いで、間一髪という感じでした。」

また、同じく山麓に位置する湯谷団地では、それまでの大雨により一部地域で事前避難が行われていたことから、人命は失われませんでしたが、64棟もの住宅が押しつぶされました。「山が、こちらに、向かって落ちてくるわけです。大きな石や土砂のかたまりが、なんとも不気味な轟音をとどろかせて、すごい速度でこちらに向かってやってくる。足がすくむなんてものじゃない。このまま死ぬかもしれないと覚悟を決めるような…、そんな心境の恐怖です。言葉で思い返すより、この身体に恐怖がよみがえります。」との住民の方のコメントも残されています。

災害からの復興にあたり、地すべりを発生させた斜面には防災メモリアル地附山公園が整備され、アンカー工や植栽工、集水井、排水トンネルなど、地すべりの仕組みやその対策工などについて、実際に見て学ぶことができる施設となっています。公園の入口付近、松寿荘の跡地には、犠牲になった26名の入居者を慰霊した「松寿荘災害被災者慰霊之碑」と「地附山地すべり災害松寿荘犠牲者慰霊レリーフ」が設置されており、毎年、地元住民らの団体「地附山トレッキングコース愛護会」により、慰霊碑前で追悼の集いが行われ、黙祷が捧げられるとともに、防災への誓いをあらたにしています。



(上) 松寿荘災害被災者慰霊之碑
(下) 犠牲者慰霊レリーフ



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたかくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●小原ふれあい公園 (vol.67,2019.11)

所在地：豊田市小原町

交通：とよたおいでんバス「小原大草」停 南西 約 200m

昭和 47 年 7 月、愛知県内で多数の犠牲者を出した豪雨災害がありました。この年の梅雨は例年にない長雨となり、7 月 12 日には東海地方に停滞した前線の活動がいよいよ激しくなると、20 ～ 30km 程度の幅をもった細長い線上の降雨域が美濃三河高原一帯を覆いました。当時の記録として、「12 日深夜から 13 日未明にかけては、雨というより水のかたまりのような降雨でありすさまじい豪雨であった。」との描写もあるほどで、西三河山間部では 12 日の朝 9 時から 13 日の朝 9 時までの降水量は 284mm に達し、記録的な豪雨となりました。

のちに昭和 47 年 7 月豪雨と呼ばれるこの豪雨により、旧小原村では大規模な土砂災害などが発生し、死者 32 名、

建物の全壊は住家・非住家あわせて 340 棟余りに及び、村の有史に残る大災害となっています。家屋の被害は裏山の崩壊・崖崩れという、地滑りが大きな原因とされ、ピークが夜半であったことも重なり、自宅にとどまって犠牲になった方も多くありました。犠牲になった方々の慰霊のため、昭和 48(1973) 年には、災害犠牲者慰霊碑が建立されています。

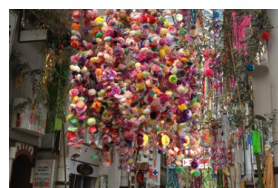
昭和 50 (1975) 年 10 月には、小原村の復興を記念し、災害復興記念碑が建立されています。碑には村民一丸となって復興に向けて取り組んだこと、殉難者の霊を慰めることとともに、関係者への感謝の気持ちが記されています。現在では、小原ふれあい公園の一角に、災害犠牲者慰霊碑とともに安置されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.86 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★長野七夕まつり

榎堂商店街は、榎堂駅から善光寺参道までつながる 500m にわたる商店街で、長野県唯一の歩行者天国のアーケード商店街です。榎堂の地名の由来は、善光寺の被災時に幾度となく仮堂の役割を果たしたこと、金色の本尊が安置されているお堂（金堂）であったこと、などと伝わっています。江戸時代には、善光寺参詣の精進落としの水茶屋が栄え、現在でもその舞台となった名所旧跡が点在しています。



榎堂商店街 HP より

長野七夕まつりは、榎堂商店街のアーケード通りで、毎年 7 月 20 日から 8 月 7 日に開催される夏の風物詩です。商店街のアーケードには色とりどりの七夕飾りが並び、賑やかな雰囲気が醸し出されます。期間中は、来場者も用意された短冊に願いごとを書き、笹に飾りつけることができます。

～自動車で巡る～

長野市街地から戸隠へは、かつては戸隠バードラインが主要



photo AC より

なルートでしたが、昭和 60 年の地附山地すべりで約 2km が崩落し、その後、北寄りの県道 506 号戸隠高原浅川線の改修が進められ、市街地に近い浅川から飯綱高原を結ぶ浅川ループラインが開通しました。現在は、これが戸隠方面へのアクセス道路となっています。

●ブレイクタイム●

♪戸隠神社

戸隠山の麓にある戸隠神社は、二千年余りに及ぶ歴史を持つ神社です。天の岩戸神話において、岩戸に隠れた天照大神が神々により外に導かれる際に、天手力雄命が岩戸を押し開きその岩戸が下界に落ちて戸隠山になったという伝説が残されています。奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社には、天手力雄命を始め、神話に登場する神々が祀られ、開運や心願成就、五穀豊穡の他、スポーツ必勝などのご利益もある日本有数のパワースポットとして、多くの参拝客が訪れます。

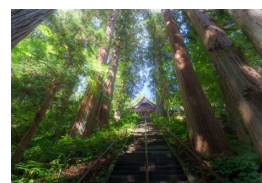


photo AC より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 7 月)